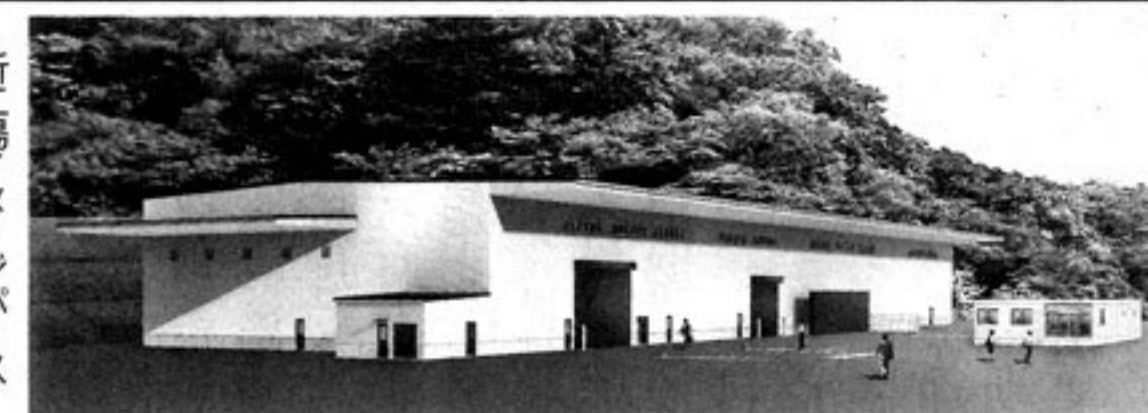


新工場「みらい創生パーク」を建設

8月末竣工、10月操業開始予定



新工場イメージハウス

常石グループのツネ
イシカムテックス東広
島（広島県東広島市、
渡壁省吾社長）は、広
島市安佐北区に新工場
「みらい創生パーク」を
建設する。品質向上や
生産体制の強化、既存
設備の老朽化対応を目
的としたもので、投資
額は約20億円（土地代
除く）。8月末の竣工、
10月の操業開始を予定
している。

新工場の敷地面積は
2万1681平方メートルで、延床面積は約3500平方メートル。既存工場の用地が限界まで利用されていることから、新たな事業用地を確保し、今後の事業拡大や新規事業展開を見据えて建設を決めた。既存の汚泥事業の拡大に加え、自社によるマテリアリサイクルやケミカルリサイクルといった新たな取り組みも視野に入れている。

新工場では、混練造粒機「ペレカイヤ」や

圧縮式破砕機「ジョークラッシュャー」などを導入し、汚泥事業の処理能力を増強する。特にペレグイヤについては、生産能力を現状比180%まで高める計画で、無機汚泥や高力ロリー汚泥、焼却向け汚泥などへの対応力を強化する。汚泥事業では2028年に月間約1700トの増産を想定しており、売上ペースで現在の約1.5倍となる見通しだ。

環境対策にも力を入れる。フィルター換気設備やオートシャッター、防液堤による漏洩対策、飛散防止設計の他、雨水の利活用などを採用し、周辺環境への配慮を徹底する。

同社の渡壁社長は、「取引先が多様化に伴

環境省
PFOs等の対策技術
濃度低減へ実証結果を

三和油化
工業

026年
決算で売
億630
同期比26
業利益が

廃棄物業界のDXでお悩みの経営者様へ

太陽光パネルリサイクル事業を開始
ガラスをコンクリート製品に活用

各種コンクリートブロック製品の製造・販売事業等を展開するよねざわ工業（北海道恵庭市、米澤悟社長、0123・32・2221）は、太陽光パネルサイクル事業を開始した。受け入れた太陽光パネルから資源を回収、選別工程を経たガラスカレットに関して、は自社のコンクリートブロック製品の骨材として活用していくことで95%以上のリサイクル



太陽光パネルリサイクル施設

(タ/イ) 処理能力 11
 (日)、P.Vリ
 ンマー(タ
 イ) イカーチヨ
 ヲ製、処理
 能力 1124
 0枚/日)、
 振動異物除
 去装置(処
 理能力 114
 ヲ/日)、循
 環式風力選
 別機(日本
 専機製、処
 理能力 114
 ヲ/日)、色

彩選別機(DAEWOO
 N GSI社製、処理
 能力 113・6ト/日)
 を新たに導入した。
 設備の導入に当たつ
 ては北海道の2025
 年度循環資源利用促進
 設備整備費補助事業に
 採択されている。既に
 産業廃棄物処分業許可
 を取得し、4月から受
 入を開始した。
 処理の流れとして



は、PVフレイムセパレーターでアルミフレイムと端子ボックスを回収し、PVリサイクルハンマーでガラスカレットとバックシートの破碎・剥離を行う。アルミフレイムや端子ボックス、バックシートに関しては外部の資源化ルートを活用し、ガラスカレットに関しては振動異物除去装置と循環式風力選別機、色彩選別機で純度の高いガラスカレットを回収し、同社のコンクリートブロック製品の骨材として活用していく。

同社では来春を目途にインターネットショッピングブロック製品で骨材としてガラスカレットの活用を進め、北海道認定リサイクル製品としての登録も目指す。2〜3年後には他のコンクリート製品でも骨材としてガラスカレットを活用し、95%以上のリサイクル率達成を目指す。2031年には年間300t以上のガラスカレットを骨材として活用していく等の目標を掲げている。

ガラスカレットの選別施設と骨材としての活用用途を有しているため、他社（太陽光パネルリサイクル処理・リサイクル施設）から排出されたガラスカレットの受入についても検討しているという。

万円（同となり、益を達成勢の悪化給への不再生製まり、リ

廃棄物業界のDXでお悩みの経営者様へ

ネット・販売・開業

業利益が

主編：王德勝

インターネット
日報ホームページ

<https://www.nippo.co.jp/>

【包装・廃棄物・環境の『製品情報』発信中】

首都圏環境美化センター(東京・足立・斉京由勝社長)はこのたび、2自治体からの委託を受け、家庭から排出された容器包装・製品の一括回収プラスチックの選別・圧縮・梱包の前処理を行う施設を立ち上げた。4月から稼働を開始している。

既存の第5工場をリニューアルし、足立区の一括回収プラの処理ラインを整備。さらに荒川区から受け入れた一括回収プラの前処理を行う第7工場を新設した。同社ではこれまでで事業系産業廃棄物の

一括回収プラ前処理施設の稼働を開始

首都圏環境美化センター

家庭系プラの処理に参入



第7工場の処理ライン



製造したペール

第7工場の処理ライン

製造したペール

を實施し
包装のみ
みそれぞ
製造し、
者に出荷
た今後、
類からリ
電池（Li
すAIロ
やライン
器や散水
混入によ

収集運搬と中間処理を
中心に事業を展開して
きたが、このほど行政
回収の廃棄物処理事業
に乗り出した形にな
る。

第5工場では、受け
入れた廃棄物をホッパ
で投入し、破袋機で
破袋する。その後、磁
力選別や光学選別、手
選別によりプラ以外の
異物を取り除き、容器
包装と製品プラ一括の
ペールを製造する。完
成したペールは指定法
選別する。その後それ
を第7工場では、破袋
機で破袋後、ロールス
クリーンで重量物、軽
量物、細粒物の3種に
選別する。その後それ
を第7工場では、破袋
機で破袋後、ロールス
クリーンで重量物、軽
量物、細粒物の3種に
選別する。その後それ

を實施し
包装のみ
みそれぞ
製造し、
者に出荷
た今後、
類からリ
電池（Li
すAIロ
やライン
器や散水
混入によ

それ手選
したブラ
ップと異
う。最後
を経てベ
荒川区で
環境進法
認定ルー
を実施し
包装のみ
みそれぞ
製造し、
者に出荷
た今後、
類からリ
電池（Li
すAIロ
やライン
器や散水
混入によ